



渡辺 松男 議員

防災・減災について

問 洪水ハザードマップとタイムラインは目の届くところに置き、いざというときに活用できることが大事であるが、マップは薄く、本の中に挟まって紛れてしまうこともある。次回は、A4よりも大きいサイズや、ブック型に変更するなど工夫し、改良をお願いしたい。いざというときどう逃げるのかは、普段から自分で考え、自分で行動する意識が必要である。そこで、

常総市が推進中のマイ・タイムラインが必要ではないか。また、子どもは小中学校で教わったことを忘れず、そのまま大人になるため、学校での防災教育が一番大切である。イラストやクイズを使い、楽しく学べる工夫がされている「こども防災手帳」を提案したい。

答（教育長） こども防災手帳については、今後さらに詳しい情報を収集し、検討していきたい。

答（生活安全部長） 市民の皆さまにハザードマップの有効性を知っていただき、いざというときに役立てていただくため、今後も関係団体と連携し、その活用を積極的に啓発していく。次回改訂時には、大きさやブック型等、なくさないようなもの

を考え、抜本的に見直していききたい。また、防災説明会や出前講座の回数を重ねている地域では、タイムラインからマイ・タイムラインに踏み込んでいる地域もある。しかし、啓発が行き届いていない地域もあるため、今後も支援を行っていききたい。



古河市洪水・道路冠水ハザードマップ

＜その他の質問＞

・自転車保険について



阿久津 佳子 議員

防災・減災の取り組みと災害時の自助・共助のあり方について

問 防災・減災と自助・共助は相関性がある。それぞれの取り組みと市民への啓発について伺う。また、マイ・タイムラインは自助の行動指標となる。古河市監修のマイ・タイムラインを作成する予定はあるのか。

答（生活安全部長） 防災や減災への取り組みとして、国や県に対する河川の堤防強化の要望、水防説明会の実施、中学校区を

対象とした地域防災訓練等を行っている。また防災出前講座、市長と語ろうまちづくりを通じ、市民の防災意識を高めるなど自助、共助の啓発を行っている。マイ・タイムラインの作成については、鬼怒川・小貝川大規模氾濫に関する減災対策協議会で作成された教材、逃げキッドを参考に作成を検討している。



逃げキッド

マイ・タイムライン検討ツール

古河市福祉避難所基本計画について

問 基本計画の中で、福祉避難所の整備と追加指定および避難

行動要支援者の個別支援計画作成は喫緊の課題と考える。その進捗状況について伺う。また、災害時の近隣市町との福祉避難所等の相互間援助・協定締結について所見を伺う。

答（健康福祉部長） 福祉避難所の整備、追加指定についてはバリアフリー化への修繕等を調査中であり、関係各課と順次協議を進めていきたい。また、避難行動要支援者の個別支援計画の作成については、市内12カ所の高齢者等の福祉事業所に協力いただき試行的に行っている。近隣市町との災害時の支援協定は平成29年10月に締結しており、避難所等の相互利用も規定されているため、協定に基づき利用の要請をする想定である。